

召会の五つの面

聖書：I テモテ 3:15-16. ガラテヤ 6:10, 16

**I. 神の召会は生ける神の家です——I テモテ 3:15：**

**A. 神の家は神の家族です——エペソ 2:19：**

1. 住まい（家）と家庭（家族）は一つの実体、すなわち、召され、再生され、神ご自身によって内住された一組の人です——I ペテロ 1:3, 2:5. I コリント 3:16。
2. 神の家族は神の多くの子たち、すなわち、神の長子キリストの多くの肢体たちから成っています——ローマ 8:29. ヘブル 2:10-12。
3. キリストが彼のからだから分離されているのではなく、彼らの中に住んでいるように、御父は彼の家族から分離されているのではなく、すべての子供たちの中にいます——ローマ 8:10. 12:4-5. II コリント 6:16。
4. 神の家としての召会について語る時、パウロは神を生ける神として言及しています。神は生きていますので、神の家としての召会も彼の中で、彼によって、彼と共に生きています。生ける神と生ける召会は共に生き、行動し、働きます——I テモテ 3:15. I コリント 3:16。

**B. 召会は神の家として、神の住まい、神が彼の安息を持ち、彼の信頼を置くことができる場所です——エペソ 2:22。**

**C. 召会は生ける神の家、御父の家として、拡大された、宇宙的な、神性と人性の合併です——ヨハネ 14:2, 20。**

**II. 召会は真理を支持する柱、また真理を保持する基礎です——I テモテ 3:15：**

**A. 真理とは、三一の神がキリストを具体化、忠信、表現とし、キリストのからだ、神の家、神の王国としての召会を生み出すことです——コロサイ 2:9. エペソ 1:22-23. 4:16. I テモテ 3:15. ヨハネ 3:3, 5。**

**B. I テモテ第3章15節の「真理」は、神の新約エコノミーにしたがって、キリストと召会に関して新約で啓示された真実な事柄を指しています——マタイ 16:16, 18. エペソ 5:32。**

**C. 召会はキリストを実際としています。召会は全宇宙に、キリスト、キリストだけが実際であることを証ししています——ヨハネ 1:14, 17. 14:6。**

**D. 召会は真理を担う柱と、柱を保持する基礎として、神の奥義としてのキリストと、キリストの奥義としての召会の実際、真理を証しします——コロサイ 2:2. エペソ 3:4。**

**III. 召会は肉体における神の現れ、敬虔の奥義です——I テモテ 3:15-16：**

**A. 神の現れはまず、肉体における個人的な表現としてのキリストの中にありました——16節. コロサイ 2:9. ヨハネ 1:1, 14。**

**B. 神は召会（神の家とキリストのからだ）の中で、肉体における拡大された、団体の表現として現れます——エペソ 2:19. 1:22-23：**

1. 肉体における神の現れは、キリストで始まりました。そして召会をもって続きます。召会は肉体における神の現れの増し加わり、拡大、増殖です——ヨハネ 14:9。

I テモテ 3:15-16。

2. これはキリストが神の現れとして、召会から生かし出されることです。すなわち、神が新約の肉体と成る原則にしたがって、さらに広い方法で肉体において現されることです——I コリント 7:40. ガラテヤ 2:20。

C. 偉大な敬虔の奥義とは、神が人と成り、人が神格においてではなく命と性質において神となって、団体の神・人を生み出し、肉体における神の現れとなることです——ローマ 8:3. 1:3-4. エペソ 4:24。

#### IV. 召会は信仰の家です——ガラテヤ 6:10 :

A. 信者たちは信仰の家庭（家族）の者たちです。神の家、神の心の願いとしての永遠のベテルは、信仰の家です——創 28:11-12, 16-19 前半. ガラテヤ 6:10。

B. 信仰には二つの意義、客観的なものと主観的なものがあります——I テモテ 1:19. II ペテロ 1:1 :

1. 客観的な意義において、「その信仰」は、わたしたちが信じる事物を指しています——使徒 14:22. I コリント 16:13. ユダ 3, 20 節. エペソ 4:13. II テモテ 4:7。

2. 主観的な意義において、「信仰」は、信者たちの信じる行為、信じる行動を指しています——ガラテヤ 2:20. ローマ 1:17。

C. 信者たちの信仰は、実は彼ら自身の信仰ではなく、キリストが彼らの中へと入って彼らの信仰となったものです——3:22. ガラテヤ 2:16。

D. 信仰とは、「神はある」ことを信じることです。「神はある」ことを信じることは、彼がわたしたちのすべてであり、わたしたちが無であることを信じることです——ヘブル 11:6. ヨハネ 8:58. 伝 1:2。

E. わたしたちの信仰の霊は、見えない神のすべてを実体化するために、わたしたちが活用しなければならない器官であり、客観的に彼であるすべてをわたしたちの中へと移して、わたしたちの主観的な経験とならせます——ヨハネ 4:24. ヘブル 11:1, 27. I ペテロ 1:8. 2:7. II コリント 4:13。

F. わたしたちはみな質において同じ信仰を持っていますが、わたしたちが持つ信仰の量は、わたしたちがどれほど多く生ける神と接触し、彼がわたしたちの中で増し加えられるようにするかにかかっています——ローマ 12:3. 使徒 6:5. コロサイ 2:19。

#### V. 召会は神のイスラエルです——ガラテヤ 6:16 :

A. 使徒パウロはキリストにある多くの個人の信者を、団体的に神のイスラエルと考えています——8, 16 節 :

1. 神のイスラエルは真のイスラエルであり、キリストにあるすべての異邦人とユダヤ人の信者を含み、彼らはアブラハムの真の子たち、また信仰の家族です——ローマ 9:6 後半. 2:28-29. ピリピ 3:3. ガラテヤ 6:15-16, 10. 3:7, 29。

2. 真のイスラエル、霊的なイスラエルは、召会です——6:16. マタイ 16:18。

3. 神の新約エコノミーにおいて、わたしたちは神の子たち、また神のイスラエルとされています。わたしたちの運命は、神の子たちとなって神を表現し、また王となって神の王国の中で支配することです——ガラテヤ 3:26. 6:16. 啓 21:7. 22:5 後半. 12:5 前半。

4. わたしたちは神のイスラエルとして、神を代行し、彼の権威を行使し、地上で彼

の行政を執行して、彼の定められた御旨を完成します——創 1:26, 28. ルカ 10:19.  
啓 12:5, 7-11。

5. 神の新約エコノミーは、わたしたちを神の子たちとするだけでなく、神のイスラエルとすることです。わたしたちはそのようなイスラエル、すなわち王子となって、地上で神の行政を執行する必要があります——エペソ 1:5. ヘブル 2:10. ローマ 8:14, 19. ガラテヤ 3:26. 4:6-7. 6:16. マタイ 6:9-10。

B. 召会は神のイスラエルとして来たるべき新エルサレムの縮図であり、新エルサレムは神のイスラエルの究極的な完成です——啓 21:2。